

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294201575		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ上足洗(1階ユニット)		
所在地	静岡市葵区上足洗		
自己評価作成日	令和4年6月22日	評価結果市町村受理日	令和4年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294201575-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294201575-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年7月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナ禍にて、施設内での畑での収穫や、植木の果物の収穫にも力を入れています。今年の挑戦は希望にてトウモロコシ・メロンです。去年の工夫目標にて、利用者様とアチーズを挑戦してみました。  
施設内での工夫も、運動マシンや、マッサージなどレクの工夫も行いました。散歩に行ける時は、感染予防を行い散歩の方も取り組んでいます。コロナ禍に会えないご家族様に、去年1年間のご様子を個々に作成しDVDにし送らせて頂きました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

重要事項説明書には緊急時の連絡先や第三者評価の実施状況を記載する等、日頃の丁寧な対応が書面からも見え、特にアセスメントについては課題と分析が詳細かつ端的にA4版に収められ、介護への真摯な姿勢が伝わります。また地域の生ゴミ置きスペースとなっている玄関脇の掃除が行き届いていることや、外気浴を兼ねた庭先での四方山話にペットの散歩で近所の人から声がかかることもあるとのエピソードからは、近隣との関係性のよさも受けとめられます。「よりよくなりたい」との気概も高く、クラスター経験を通して改善案をとりまとめたり、家族にはDVDで利用者の動画を送る等、前進の足跡が少なくありません。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	去年までは、管理者が目標を作成していたが、今年は各階で職員会議にて理念に基づき目標をあげ行っている。	年度の目標設定は、各ユニットで検討したうえで、それぞれで作っています。これまでは管理者主導でトップダウンでしたが、ボトムアップを通じて職員に責任感や遂行能力が培われることが期待されます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	感染予防を行い散歩をできる時に行うようにし、地域と関わりをもてるようにしている。現在はできていないが、外にベンチをおき交流を作れる場を作っている。	コロナが終息しないため地域との交流は断っていますが、訪問歯科や理美容など介護以外のサービスについては必要に応じて来所があります。また(マスク着用)散歩では挨拶を交わし、時には数分の立ち話となることもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状できていないが、運営推進会議の資料などを 大家様などに渡し、理解頂けるようにはしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事・サービス内容に関しては報告・意見を頂いています。職員間でも話し共有できるようにしている。	コロナ禍となってからは書面開催で代替されてはいるものの、参会よりも密なものではないかと思うようなQ&Aが書面上で実現しています。「よくやっている」と評価もある一方で、苦言もあり、運営向上の貴重な材料が届いています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長・ケアマネなど連絡を取り、意見など分からない事は確認を取りながら取り組んでいる。	国から抗原キットが1ヶ月に1回届いており、事業所では積極的に活用しています。またコロナの陽性者を複数回出したことについては、事業所内で熟考したうえで是正案を策定し、行政の助言も仰いでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動制限や抑制を行わないように離れた所から見守りを行うようにしている。	3ヶ月に1度開催の委員会については法人本部に各事業所の管理者が集まり、協議を重ねています。所内ではその内容を回覧するとともに、年2回の研修と新採者研修をオリジナルテキストを備えて運用していて、丁寧に取組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や職員同士で話をしたり、声掛けをしあって互いの状態の把握を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修資料で学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明は施設長が行っている。利用者様の不安や家族様の不安・心配な事があれば対応ができるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りノートに書いたり、月1回の職員会議などで話せる機会を作り、反映ができるようにしている。	コロナでクラスターをだしてしまったことは深く反省の意を家族に伝えていますが、一方で叱責があるほど近い関係にもあります。毎月の通信はA4版からA3版に拡大させ、本人の様子を動画に収めたDVDも届けており、家族アンケートにも感謝の言葉が挙がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や・個々に面談など行い意見を聞く機会を設けている。	職員の意見は恣意的に見える面もあり、組織内での立場をわきまえずの発言が散見されますが、管理者は職員一人ひとりに感謝の言葉をカードに綴って、1年に1度贈呈するなど和に努め、職員もそれに応じていて、現状はまとまっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1人1人と面談や話をする時間を作り仕事をしやすくするよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内での研修は行っているが、会社外の研修は行っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年より、グループホーム協議会に管理者・ケアマネ参加を行い向上できるように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に話を聞き、その後ケアマネと共有できるよ努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	細かく連絡を取り、現状の報告や、ご家族様が不安に思っていることが安心に変わるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の要望が違う時は、まずご本人様が安心して頂けるようご家族様と話し合いを行い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の「今行いたい」事が、できるよう努めているが、できていない時は、お互い職員同士で声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会いたい時に会える、話をしたい時に話せる事ができるよう要望を聞き対応できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は制限あるが、電話などで、お話ができる機会を設けている。	自宅からの習わしだった計算ドリルを日々積み重ねる人、痛みを感じるとのことから精神状態が安定せず家族と電話で毎日のように会話をもつ人、それぞれの思いや習慣が続くよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の利用者様の個性をつぶさないようにしながら席などは配慮を行っている。一人にならないよう検討を必ず行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡が取れる方、希望がある方はご家族様と相談を必ずしながら支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活・ルーティンなどをなるべく崩さないように本人様の行動を観察を行い本人らしさができるように努めている。	「刺身が食べたい」などと、普段から食に関しては大半の人が口々に要望を挙げ、テレビや新聞の折り込みで刺激を受けて、突然「たべたい」となる日もあります。またお洒落な人は「髪染めが～」と買い物のリクエストもあって、職員が工夫して実現させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	始めにアセスメントで聞き取りを行い、その後はご家族様、ご本人様とコミュニケーションを取りながら把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で意見交換を行ったり、ご家族様の意見を聞きながら介護計画を作成し、見直しを行っている。	週1日法人から派遣され勤務している介護支援専門員ですが、普段の状況は居室担当者並びに管理者が伝えていきます。またカンファレンスや訪問診療の立ちあいなども交えるほか、現状の課題分析が的確なアセスメント表も備え、情報共有を叶えています。	2ユニットの内、1ユニットでは居室担当者を設けることができていません。現状介護支援専門員(計作兼務)が非常勤のため、常勤の計作を置くか、居担を用意するか、是正が進むことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや職員会議などで意見の共有ができる場を設け反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部との交流をもてる機械を作れるよう検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の意向なども確認し、ドクターに報告、医療面で大事な事は、ドクターより説明をして下さっている。ドクターの指示にて受診対応を行ったり、ご家族様が対応をしてくださる。	介護支援専門員が常勤ではないため、月2回の協力医の訪問診療日には勤務日を調整のうえ、なるべく現行を把握してもらうようにしています。またコロナ禍で家族の立ちあいはありませんが、内容は管理者から電話で都度報告をおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の方が来所時相談を行い、ドクターに報告・相談できるよう行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医への紹介状、サマリーを提出し、細目にやりとりを行い連携をケアマネ・施設長が対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期までの対応はしていない。少しでも変化がある場合は、ご家族様に相談・報告を行った上で医療と連携している。	契約時に「看取りはおこなわない」ことを家族に説明し、了解を得ています。重度化となれば、医師と家族と事業所の3者で相談のうえ、療養型や特別養護老人ホームなど状態と希望に応じて、移設の支援をおこなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行いながら、職員が理解ができていくかアンケートをとっている。研修資料がいつでも見れるようフロアにファイルとして保管している。今年は訓練は受けていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、協力体制が取れるよう地域の方にもお願いしている。感染の関係で一度だが、地域の方を交え訓練を行いました。	昨年度の外部評価で課題とした新人の初動確認は実施達成していますが、台風被害を想定した机上シミュレーションと感染症を含むBCPの策定については進捗がありませんでした。法令で定められている訓練実施は遵守しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した言葉かけをするように心掛けている。できていない時は、その場で、職員に説明をしている。	介護記録は「～される」という書き方で、利用者を敬う姿勢が現れています。また同じく「トイレ回数がいつもより少なく～」との記録からも、経過観察が日常に溶け込んでいることが見え、ケアの充実が滲みます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中からお本人様が行いたい事を考え配慮を行い対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の思いを大切に行動などを観察し生活支援を行えるよう対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日服を変えたり、希望で理美容は、パーマや染めたりし行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付けなど、利用者様と行っている。ご利用者様の食べたい物を聞きながら工夫をしている。	夕食は湯煎のものが業者から届いており、朝と昼は職員が手作りしています。定番の用宗港へのシラスの買い出しのほか、清水港まで出向いて新鮮なバチマグロで海鮮丼とすることもあり、利用者に「美味しいもので飲んでもらおう」との考えが浸透しています。	朝から炊き込みご飯や鶏肉と卵の煮物と豊かな反面、夕食はレトルトとのアンバランスな点への改善を期待します(検食の実施、週1回の夕食でのイベント食などで、少しずつレトルトを減らす)。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重等もあるので、1人1人に合った食事量を提供している。体調不良や摂取が難しい場合は、検討を行い対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行うよう声掛けを行っている。夜間は入れ歯の方はポリデントにつけている。歯科往診を受けている方は、アドバイスを頂き対応を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを読み個々にあった支援している。	頻回な人は席をトイレの近くにするとといったような物理的な対策は定石として、さまざまな感覚・意識、そして動作が複雑に絡み合って成り立つ排泄行動は生活そのもののリハビリとの考えの下、立ち上がりの訓練も兼ねて「できる限りトイレ」を励行しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に水分を取って頂いたり、便秘に聞くような食事提供、乳製品を食べて頂くようにしている。薬の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使ったり1人1人のペースにあった入浴を行っている。	大きな拒否の人はおらず、時間をおいたり日や人を変えることで、週2回の入浴が完遂しています。利用者は浴剤を選び、匂いや色を楽しむとともに職員を独り占めできる時間として、ゆったりと過ごしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節の合ったパジャマを着て休むようにしている。不安な方は、安心感を持って頂くように添い寝をしたり、足浴など工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表は職員がいつでも見れる所に置いている。変更がある場合は口頭でも伝えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人できる事を探し行って頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防を行い、外出ができる時は、散歩、少人数にてドライブを行っているが、今は状態をみながら対応。今後ご家族様と外出ができればと思う。	コロナ禍で遠出はできませんが、散歩のほか玄関先の外気浴、水やりや収穫といった畑活動がコロナ禍の外出代替として機能しています。今年は新たにメロンにチャレンジするほか、トウモロコシは「蒸す?」「天ぷら?」と豊作を心待ちにしています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様同士のトラブルを防ぐためお金は施設で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話を頂いた際は、直接話せるようにしている。お手紙など送られてきた時はご本人様にお渡ししている。忘れないようにお部屋に飾りいつでも見れるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りをフローア内している。利用者様の作品なども飾ったり工夫をしている。	換気方法、歯ブラシを置く場所の検討など、感染症対策を様々考え、実行しています。ただ、利用者にはそんな心配を気取られないよう、季節の壁面創作やレクリエーションの成果品で賑わいのある共用空間となるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなでレク、体操を行う時もあれば、テレビを見ながらゆったりしたりお話をしたり、個々に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家にいた時と同じ居室、配置などし、不安がないようご家族様とご相談しながら工夫をしている。	ひとり暮らしのときのソファや絨毯を持ち込んだ居室もあり、家族写真を飾る人もいます。ほとんどの人が居室は寝室同然で日中は皆リビングにいますが、夜間の転倒は心配なため、動線など都度吟味しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人にできる事、生活改善に取り組んでいる。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294201575		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ上足洗 (2階ユニット)		
所在地	静岡市葵区上足洗		
自己評価作成日	令和4年6月22日	評価結果市町村受理日	令和4年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294201575-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294201575-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年7月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナ禍にて、施設内での畑での収穫や、植木の果物の収穫にも力を入れています。今年の挑戦は希望にてトウモロコシ・メロンです。去年の工夫目標にて、利用者様とアチーブを挑戦してみました。  
施設内での工夫も、運動マシンや、マッサージなどレクの工夫も行いました。散歩に行ける時は、感染予防を行い散歩の方も取り組んでいます。コロナ禍に会えないご家族様に、去年1年間のご様子を個々に作成しDVDにし送らせて頂きました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

重要事項説明書には緊急時の連絡先や第三者評価の実施状況を記載する等、日頃の丁寧な対応が書面からも見え、特にアセスメントについては課題と分析が詳細かつ端的にA4版に収められ、介護への真摯な姿勢が伝わります。また地域の生ゴミ置きスペースとなっている玄関脇の掃除が行き届いていることや、外気浴を兼ねた庭先での四方山話にペットの散歩で近所の人から声がかかることもあるとのエピソードからは、近隣との関係性のよさも受けとめられます。「よりよくなりたい」との気概も高く、クラスター経験を通して改善案をとりまとめたり、家族にはDVDで利用者の動画を送る等、前進の足跡が少なくありません。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	去年までは、管理者が目標を作成していたが、今年は各階で職員会議にて理念に基づき目標をあげ行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防を行い散歩をできる時に行うようにし、地域と関わりをもてるようにしていたが、現状不可能		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中に研修資料の内容などをのせご理解頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は無理だが代表者が文章や電話にて細かく説明をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題が発生した時、代表者が報告・相談など行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議にてくり返し研修を行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はケアマネや代表者から説明を受け実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族から問い合わせについてその旨代表者に伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は、代表者が文章を作成し意見書なども取り込んでる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する内容については、言えない内容もあるがなるべく理解を得る為の説明を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	とても努力されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のやる気に基き必要な場合は研修へ行ってもらいたいのが現状不可能である。内部研修は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年より、グループホーム協議会に管理者・ケアマネ参加を行い向上できるように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り叶えてあげられる様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃から連絡を取り合い報告、連絡、相談を長年努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネと相談しながら対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々努力している。コミュニケーションをはかり思いを聞くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族には連絡をし状況を説明し、ご家族様の思いも聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全てではないが、お手紙などを送って頂くよう依頼したり話題にしたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で相談しながら検討し支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様ご家族様と今もお話をしたり、問い合わせがあれば連絡をとりあっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネと相談しながら対応をしている。話し合いをし、ケアプランを作成にて協力しながら努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	解らない事などは、ご家族様に尋ね把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員に渡る様申し送りをし、少しの変化にも早めに対応する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議などで、議題にあげ検討した上で関係者に報告し行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	求められる事柄に対してなるべく応じるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容はもちろんの事歯科往診も増やし支援している。コロナ禍にてボランティアなどは利用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診内にて対応が難しい場合、相談の上で受診など対応など行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看に情報説明を行い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	代表者、ケアマネが行い必要な情報は提供、対応を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	代表者、ケアマネ医療と相談しながらご家族様に説明問い合わせに支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時は事故報告書を必ず作成し、皆が実践できるよう指示を出している。解らないときは説明個別指導をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	皆が全員身につける為に順番に訓練を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が完璧にできているわけではなく、日々職員会議などで議題にあげ対応できるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴するものの決定を妨げて閉まっている部分もあるが自立支援について検討話し合いを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まり都合を優先してしまっている部分もあるが、会議にて皆で常に話し合い支援できるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んで頂くなど工夫している。身だしなみにも支援している。お化粧品など。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は皮をむいたりできる限り一緒に行っている。片付けは毎日行って下さる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアスケジュール表を確認しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎日行っている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でない方もトイレにて排尿するよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。食事・飲み物などの工夫。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎回ではないが、入りたい方は優先的に入浴するように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に限りはあるが、医師に確認しマッサージなど行ったり努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と協力し薬の作用について皆が理解できるようプリントアウトにした書類を確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常に課題として努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は限りがあるがコロナ禍少しずつ取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解はしているが、実際現金は持っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける方には書いていただいたり、電話は今現在言われる方がいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃は徹底し指示もしている。季節感はレーションにて取り入れ工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士で過ごせるよう席の配慮も考えながら行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の時点で使用していた家具などを持ち込み不安にならない様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元に物を置かない事など安全面は特に気をつけている。		